

# まちづくり人財塾 第1回講座 開催のご報告

## テーマ「牧之原市の市民ファシリテーターの活動を知ろう！」

第1回講座では、会場に、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員 佐藤淳氏、オンラインで、友好都市である静岡県牧之原市のまちづくり協働ファシリテーター（市民ファシリテーター）の皆さんを講師としてお招きし、市民ファシリテーターの活動について知り、話し合いの進め方について学びました。

### ●ファシリテーターとは？

会議や話し合いの中で**ファシリテーション**を行う人のことで、簡単にいうと、話し合いの司会進行役のことです。

### ●ファシリテーションとは？

元々は「容易にする」「促進する」「支援する」「円滑にする」という意味の言葉で、そこから会議などの「集団による知的相互作用を促進する働き」のことを**ファシリテーション**といいます。つまり、身近な会議や集会の場をもっと楽しく有意義にするための話し合いの手法がファシリテーションであり、これを学ぶことで行政と町民・町民同士がみんなで一緒にまちづくりを考えるきっかけとなると考えます。

### 【アイスブレイク】（話し合いを始める前に緊張をほぐし、話しやすい雰囲気を作ること）



牧之原市から届いたお茶のティーバッグを水のペットボトルに入れて振ると…あっという間に冷茶の完成です。

牧之原市ではよく、このようにしてお茶を作っているそうです。

●講座では、全員で半円になり、オンラインで牧之原市の市民ファシリテーターのお話を聞いたり、タブレットを利用して、自己紹介などを行いました。



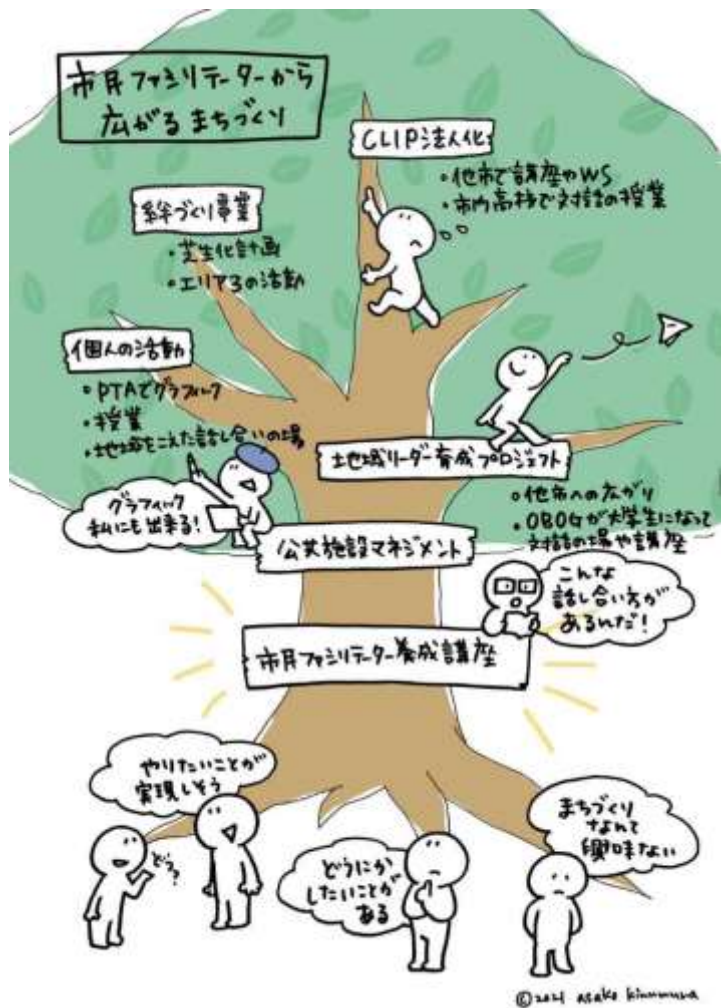
タブレット端末に向かって  
自己紹介

## 【牧之原市 市民ファシリテーターの活動】

●牧之原市では、市民の中からファシリテーションが出来る人材を養成する講座が実施され、実際のまちづくり事業でも中核を担う「市民ファシリテーター」が誕生しています。

●右の絵は、話し合いの内容や流れを分かりやすく見える化するため、市民ファシリテーターの絹村さんが描いたものです。これも話し合いを進める中での手法の一つで、**グラフィックハーベスティング**といいます。

●市民ファシリテーターとグラフィックを描く人(グラフィッカー)がチームとなり、地域の話し合いの場に入って活動するため、2020年には一般社団法人CLIPも設立されています。



## 【グループワーク】

●グループに分かれてからは、市民ファシリテーターも交え、対話を体験しました。  
**テーマ：「牧之原市の話聞いて、驚いたこと・三戸町でもやってみたいこと」**

### 【参加者の意見・感想】

- ・ いろんな工夫、活動、自分たちの世代でも町を盛り上げる何か出来るかの意見を出していかなければならないと感じた。
- ・ 市役所と関係ない人が活動していることに驚いた。市民が積極的に活動し、参加しているのがすごい。
- ・ 大人と話す機会、地域の人とコミュニケーションを取れる機会をもっと増やしたい。



参加者からは積極的に話し合いの場に参加したいという声が多く見られました。

当日は18名の方にご参加いただきました。  
ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。